



諸遊壊司議員

# 保育所は改修か統合か

## 教育委員長 拠点保育所の整備

**問** ①町内には10か所の保育所がある。多くの施設が昭和50年代に建設され、老朽化が大変目立っている。

多様な保育ニーズ（乳児保育・幼児保育・早期保育・延長保育等）に対応できる施設が整備されていない。定員に満たない園とオーバーしている園とがあり、余りにもアンバランスである。

②保育所の給食はおかずのみで、子どもたちは家からご飯を持ってきている。朝食にパンの家庭も多く、前日の夕飯を弁当に詰めて持ってきている。

保育所は全国的にも民営化が進んでいる。県内でも鳥取市・三朝町が進めている。民営化は長所・短所がある。本町では教育審議会等で検討されているのか。

夏も冬も冷たいご飯を食べている。食育の面からも温かいご飯を食べさせた方がいいのではないかと。その米代はわずかな金額（一食35円位）なので保護者が負担しても良いのではないか。

### 答 伊澤教育委員長

①建設当時は、乳児や未満児の受け入れは想定されなかったため、施設的に部屋数が不足したり、未満児用のトイレがないなどの不備がある。町の財政状況を考えると、10園の保育所の再編は避けられない。

各地区で拠点保育所を中心として1園ないし2園程度に集約する保護者や住民代表からなる検討委員会を設けて、教育委員会の原案を元に各地区の現状に合わせた再編計画を検討する。

合併特例債を活用できる平成26年度までに整備をしたい。

民営化は、研究を進めているが、現在本町では、保育所も教育委員会の管轄のもとで、乳幼児から中学卒業まで一貫した教育に取り組んでいるところ、その成果も出てきている。現段階では、その時期ではないと考える。

②保護者・地域の人の意見を聞きながら考える。現在3歳未満児は主食と副食の完全給食、3歳以上児は副食のみを提供している。これは児童福祉法で定められているからである。

「冷たいご飯より温かいご飯」を3歳以上児に食べさせたいということに反対ではないが、県内の公立保育所では3歳以上児にご飯を提供しているところはない。

今後家庭と保育所の役割、食育の視点、施設整備などの要素をふまえていく。

現在指定管理に出して

山香荘は、利用されていない屋外施設がある。そこを利用すれば、町民の要望に応えることができ、なかなか売却の進まないナスパルタウンの販売促進になるのではないかと。

山香荘利用は、国庫補助の地域休養施設整備事業で建設した施設のため、当初目的と異なり補助金返還が生じ困難である。しかし、町民の要望という観点からナスパルタウンの担当課において場所を含めてその必要性の検討を進めたい。

山香荘の屋外施設

山香荘の屋外施設